

事務事業マネジメントシート(平成24年度実績と平成25年度計画)

平成25年 6月28日更新

事務事業名		ふれあいスポーツ広場開催事業					☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり				所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	上原 哲也
	施策	22	生涯スポーツの推進				所属課	生涯学習課	担当者名	櫛野 努
	基本事業	71	スポーツへの参加機会の提供				所属班	スポーツ振興班	(内線)	1519
予算科目		会計一般	款10	項6	目1	事業連番10774	法令根拠	スポーツ基本法		成果優先度評価結果：① コスト削減優先度評価結果：⑫
終了、開始年度		☐ 24年度で終了 ☐ 24年度から開始					事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)		

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	・スポーツ推進委員(毎回5名)を中心に行うニュースポーツ教室で毎月第1、第3土曜日午前中2時間、老若男女問わず無料で自由参加できる。平成12年スポーツ振興基本計画の制定により体育指導委員協議会でスポーツの普及の必要性と方法を検討した結果、スポーツ未実施者の掘起こし、住民間のニュースポーツによる交流を目的に、平成14年度から開始された。近年は学校のクラスレクリエーションや地域のレクリエーション大会などへも活用のひろがりを見せている。
【業務の流れ】	・毎月のスポーツ推進委員会議で出席者(5名)職員1名を決定、ニュースポーツの準備、受付、また参加者にニュースポーツの指導などを実施。12時に終了。参加回数が10回になった参加者に賞品の授与。
【主な予算費目】	需用費
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	地域の体育委員や、PTA委員に選ばれた人たちが、地区やクラスでのレクリエーション大会を開催する時の種目選定、ルール の習得に來られ評価を得ている。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動) 24年度実績(24年度に行った主な活動)(DO)		25年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
スポーツ推進委員の主導により、ヴィーブルのサブアリーナにてニュースポーツ教室を開催した。1年間(16回の開催)で162名の参加があった。		各地区の活動に出向きスポーツの普及を行う。また、新しいニュースポーツの普及を企画検討する。
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア 実施回数	回	
→ イ 実施場所	箇所	
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	②対象指標(対象の大きさを表す指標)	(単位)
合志市住民、合志市内企業に勤者	→ ア 人口	人
	→ イ	
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)	(単位)
相互の交流とさまざまなニュースポーツを知るきっかけとなる。	→ ア 参加者数	人
	→ イ	
*③成果指標設定の理由と25年度目標値設定の根拠		総トータルコスト 全体計画 ～ 年度 0

(2)各指標・総事業費 の推移		単位	22年度 実績(決算)	23年度 実績(決算)	24年度 目標(当初予算)	24年度 実績(決算)	25年度 目標(当初予算)	26年度 予定	27年度 見込	28年度 見込	
① 活動指標	アイ 箇所	回	11 1	14 1	24 2	16 2	24 2	24 2	24 2	24 2	
② 対象指標	アイ 人	人	55,828	56,638	56,829	57,206	57,377	57,925	58,474	59,000	
③ 成果指標	アイ 人	人	156	149	440	162	450	460	470	470	
投資 入費 量	事業 内訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
		一般財源	千円								
	(A) 事業費計	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外・特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	人件 費	正規職員従事人数	人	5	5	6	5	6	5	5	4
		延べ業務時間	時間	60	72	39	72	39	39	39	0
	(B) 人件費計		千円	247	290	157	0	157	157	157	0
トータルコスト(A)+(B)		千円	247	290	157	0	157	157	157	0	

事務事業名	ふれあいスポーツ広場開催事業	所属部	教育委員会事務局教育部	所属課	生涯学習課
-------	----------------	-----	-------------	-----	-------

2 評価の部（SEE）

*原則は24年度的事後評価、ただし複数年度事業は24年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①24年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☐ 達成した 月2回の開催を予定していたが、一般団体の大会利用等が多く、開催回数が減少した。	☒ 達成しなかった ⇒【原因】
	②25年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☐ 目標達成見込みあり⇒【理由】 25年6月をもって、ヴィーブルで開催の「ふれあいスポーツ広場」を中止して、新しい普及活動を検討する。	☒ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 PR方法の充実により成果向上の余地がある。参加者の多くが高齢者であるため、交通手段等の関係で市内東部の住民の参加に偏っている。開催場所や周知方法等の検討の必要がある。	☐ 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある⇒（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似事業は無いため、他に手段がない。	☒ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 最少人数で対応している。	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 職員は最少人数で対応している。	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 無料で実施している。自由参加なので公平・公正であると考えられる。	☒ 公平・公正である ⇒【理由】
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 住民間のスポーツによる交流も意図しており、行政が行う必要がある。	☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

現在は、参加者が限られているため、多くの人がスポーツにふれることができるよう企画検討する。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可				(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																								
☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）				<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>						コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																										
		削減	維持	増加																								
成果	向上																											
	維持																											
	低下																											
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																												